



サイクス（SICS）は、産業情報支援センターの運営組織である、(株)西条産業情報支援センターの愛称です。

今回は、市内企業の所有する技術を紹介する「我が社の得意技」などについてお知らせします。

我が社の得意技 ⑦

顧客との信頼を生み出す確かな技術

局部熱処理株式会社（下島山甲）

得意技は局部熱処理

「小さい会社だけど声をかけていただけるとは、理論計算をした上で、確実に作業をしているからです。失敗することはありません」と、局部熱処理(株)の竹原光弘社長は語る。



▲現地での局部熱処理作業

局部熱処理(株)は、昭和55年に(有)竹原産業として設立し、平成21年に現社名へと変更した。局部熱処理とは、力が加わる工場配管などの溶接部を現地に向いて熱処理することとで、周辺部の金属となじませて結合を強化する技術である。局部熱処理(株)は設立以来



▲事業について語る竹原社長

局部熱処理を専門的に行ってきたが、この処理を行う企業は全国でも数社程度しか存在せず、そのうち四国に本社を置くのは局部熱処理(株)が唯一の存在だ。

局部熱処理(株)の特徴は、確実な熱処理技術から勝ち得た顧客との信頼関係にある。局部熱処理(株)では二人がペアとなり、作業と監査を同時に行っている。竹原社長も「他社と比較して、20%程度は余分な作業をしている」と言い切るが、奥の深い熱処理技術には、蓄積された経験に加えて顧客との信頼関係が要求されるため、確実な熱処理技術によって顧客数は現在も年々増加している。

本業から波及した第二事業

局部熱処理(株)では、自社技術を応用して不活性ガスを用いた無酸化炭化炉を開発している。この無酸化炭化炉は、炭を灰にすることなく、かつ高温で仕上げることを可能としたため、素材の形を崩さず、堅い備長炭の性質を持った付加価値の高い炭に仕上げ、ほぼ100%を製品として活用することができるのである。

「開発した無酸化炭化炉が全国の炭の産地に普及して、それが私の願いです。また、付加価値の高い炭を使ったオブジェを生み出し、新しい事業にしていきたいと思っています」。竹原社長の新事業への取り組みが続いている。



▲開発した炭化炉で作った炭のオブジェ

タイ国への輸出プロジェクト 全国の成功事例として 農商工連携ベストプラクティス30に選定

この度、当市とサイクスが取り組んでいる「タイ国への輸出プロジェクト」が、農林水産省と経済産業省の「農商工連携ベストプラクティス30」に選定されました。

これは農商工連携を普及拡大させるため、全国の農商工連携による取り組みの中から成功事例を選定したもので、当市の取り組みを含む全国の30事例が「地域を活性化化する農商工連携のポイント」で紹介されています。

当市とサイクスでは、四国内の貿易商社、JA、食品メーカー等と連携して、平成18年度から同プロジェクトに取り組んでおり、今後も四国発の輸出ルート確立に向け、さらなる輸出販路の拡大をめざしています。

「地域を活性化化する農商工連携のポイント」は、経済産業省のホームページで公開されています。

URL: <http://www.meti.go.jp/>